

蘇州語における動賓構造の連続変調

原 瀬 隆 司

A Study of Tone Sandhi of verb+object Constraction in the Suzhou Dialect

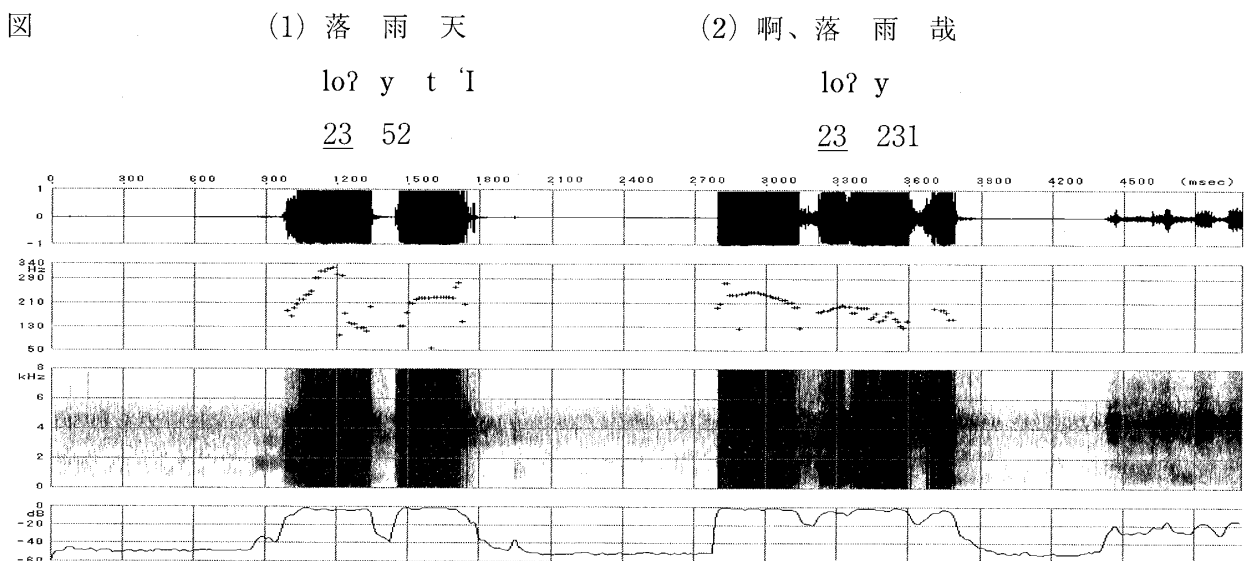
HARASE Takashi

目次

- 0 はじめに
- 1 「動詞（去声）+ 賓語」連語の変調
- 2 「動詞+ 賓語」構造における連続変調
- 3 まとめ

0 はじめに

蘇州語では文の統語構造のうち、「動詞+ 賓語」の配列には、動詞と賓語はそれぞれの音調を保ち、動賓連語が一つの音調として連続変調する音調群を作ることには一般的でない。しかし、「動詞+ 賓語」の構造の中には一つの音調群を作り、一定のパタンを作る組み合わせがみられる。たとえば、「落 lo?23+ 雨 y231」（「雨が降る」と「雨降り」）を例にとると、下図の（1）と（2）では字形と語順では同じであり、またそれぞれのセグメント（単音）も変わらないが、トーンには二つの現れ方がある。



(1) では、23 52のピッチと変化を示し連読変調がみられ、(2) では動詞と賓語は本来の声調である23 | 231のピッチと変化を示し、非連読である。

本稿でこうした「動詞＋賓語」の動賓構造でありながら、連読変調する連語を検討するものである。検討に当たり、動詞は単音節に限り、賓語も単音節と2音節からなる組み合わせだけに限定した。

尚、音調の分析には次の先行研究¹⁾を参照したほかに、音声分析器によるデータを用いて検討を加えた。これにより聴覚印象との相違を知ることができる。本文中の図に示した基本周波数データは、音声分析ソフト SUGI Speech Analyzer によって得られたものである。

蘇州語の音声のインフォーマントは、次にあげる人々である。本稿では、周忠民氏から得たデータを使用し、孫氏のデータは参考にした。

周忠民氏（女性）は1955年生まれの蘇州人（蘇州の旧市街で育つ）で、両親ともに蘇州人であり、やはり蘇州生まれ蘇州育ちの夫と1992年来日。以降、頻繁に蘇州には里帰りをしている。

孫徳増氏（男性）は1946年生まれの蘇州人で（両親ともに蘇州人）、蘇州の旧市街で育ち、退職後も引き続き蘇州で社会活動に従事。蘇州在住。

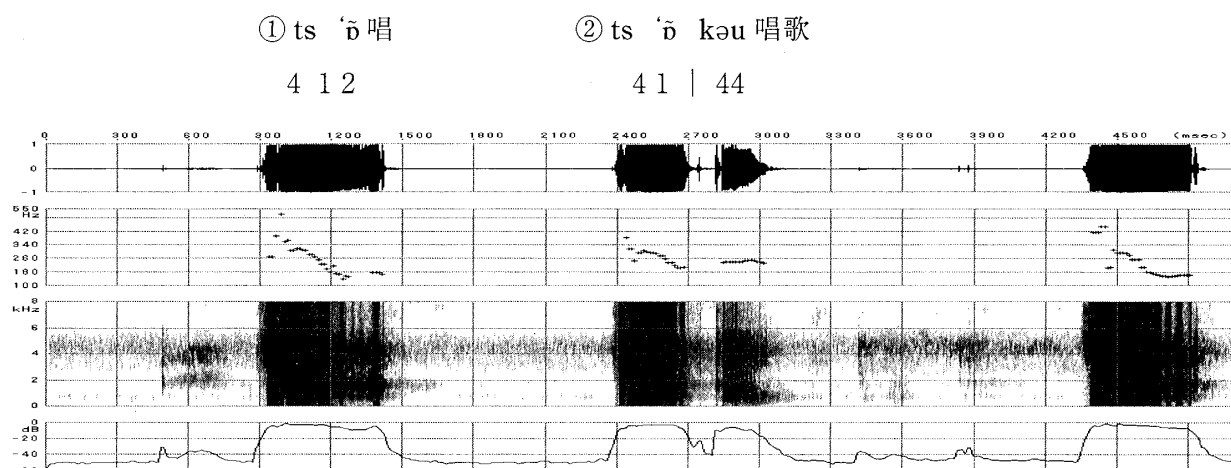
1 「動詞（去声）＋賓語」連語の変調

動賓構造の連読変調を検討するに際しては、陰調・陽調ともに曲折調をもつ去声が動詞にくる場合を検討しておく必要がある。曲折調の動詞が賓語をとる場合、その曲折調の後半のトーンが消失して連読変調を生じるからである。

蘇州語の去声には陰調類と陽調類があり、それぞれ降昇調（陰去声）と昇降調（陽去声）のトーンをもつ。「動＋賓」連語で動詞が去声の場合、一般的に動詞と賓語の組み合わせには連読変調が生じないが、去声の動詞のトーンは次のような変化をする。

まず、以下の動詞が陰去声の場合を見られたい：

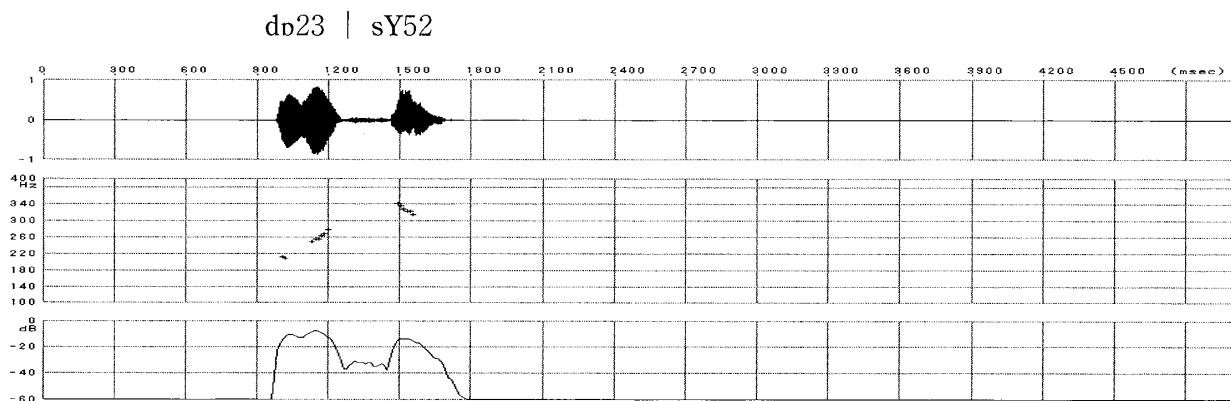
図1 唱歌 ts 'õ412kəu44



陰去声の「唱」は降昇調の412であるが、賓語「歌」が後続すると（「歌」の声調は影響を受けず本来の声調44）、「唱」は412の上昇調（12）が消失して、41の下降調のみに変じる。上図（1）の基本周波数パターンでは、320Hz から下降し140Hz から180Hz まで上昇が見られるのに対して、（2）では300Hz から220Hz への下降調に変化している。後続の「歌」のピッチは聴覚印象ほど高くはない。

次に、以下の動詞が陽去声の場合を見られたい：

図2 汰手 dɔ231sY52



陽去声の「汰」は本来、昇降調の231の調値をもつが、賓語「手」が後続すると（「手」の声調は影響を受けず、本来の52）、「汰」は231の下降調（31）が消失して、23の上昇調のみに変じる。こうした降昇調或いは昇降調のトーンの変化は蘇州語の音調に独自のものではなく²⁾、音調の連読による物理的な変調であると考えられる。

以上の去声の動詞のトーン変化があることを考えるならば、蘇州語の連読変調を生じない「動詞＋賓語」の構造には次の5つのパターンしかないことがわかる。³⁾

こうした音声の物理的な原因によるトーン変化は、実際の聴覚印象だけでなく、本来の昇降調が上昇調に或いは降昇調が下降調に変化することが基本周波数パターンからも見て取ることができる。そのため本稿では、「動詞＋賓語」の連読変調しない組み合わせである二つのパターンはいずれも本稿の対象とはしない。

- 1) 動詞、賓語部分ともに変調しないで、本来の声調に読まれる組み合わせ。
- 2) 動詞の本来の声調が「陰去声」と「陽去声」ではあるが、連語化するとそれぞれ「上声」、「陽平声」に変化したもので、賓語は本来のトーン（単音節は原声調、2音節賓語は連読変調した後のトーン）で読まれるもの。

2 「動詞＋賓語」構造における連読変調

蘇州語の単語（複音節語）・連語には、それを構成するそれぞれの単字が本来のトーンから変換し、単字間に「連読変調」（トーン・サンディ）が生じ、そのトーンに一定の類型が認められる⁴⁾。しかし、前節で指摘したように動賓構造には連読変調が生じないのが一般的ではあるが、ある幾つかの組み合わせには、連読変調して一語化するものが存在する。

本稿では、こうした連読変調したトーンタイプのなかで、舒声と入声共、広範囲に現れる以下のトーンの類型を中心にして選び、これらが動賓構造にも同様に規則的に現れるのかを検討した。次にそのトーンの類型を挙げる。

表 1

第 1 音節		2 音節の組み合わせ	3 音節組み合わせ
舒声	陰平声	4421	444421
	上 声	<u>5221</u> (4421)	444421
	陰去声	4421	444421
	陽平声	2244	224421
	陽去声	2244	224421
	陽 調	2352	235221
入声	陰 調	<u>5534</u>	<u>553421</u>
	陽 調	<u>2352</u>	<u>235221</u>

A (1) 陰平声 + 単音節賓語

動詞が陰平声で、単音節賓語をとる場合を見られたい。

図3 听书 t'in 44 sɿ 44

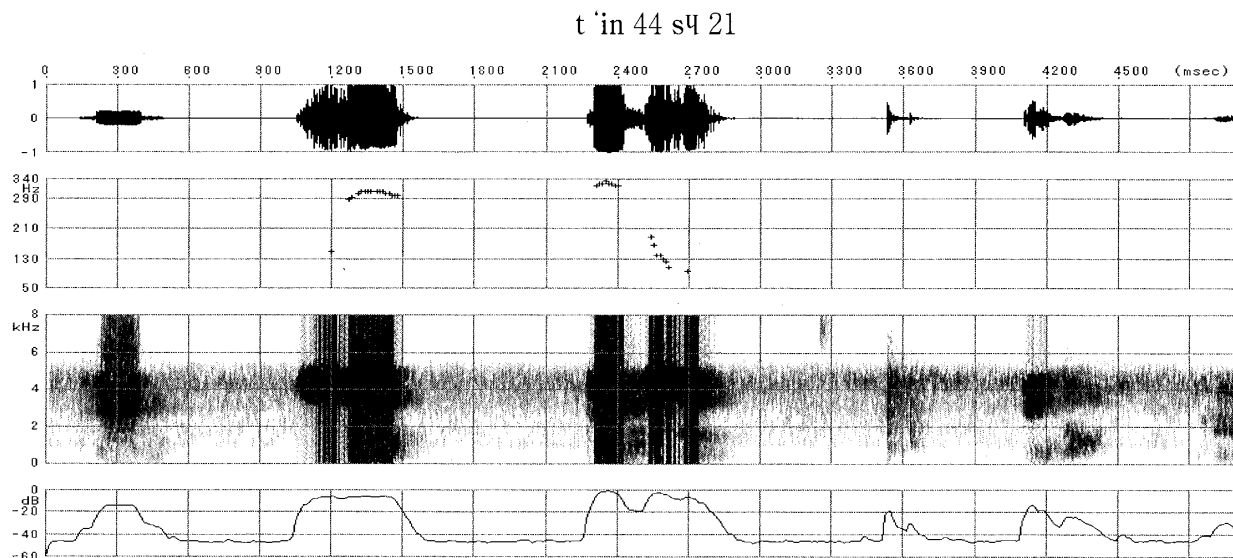


図3は44 | 44のトーンが連読されて4421に変化したピッチを示す。

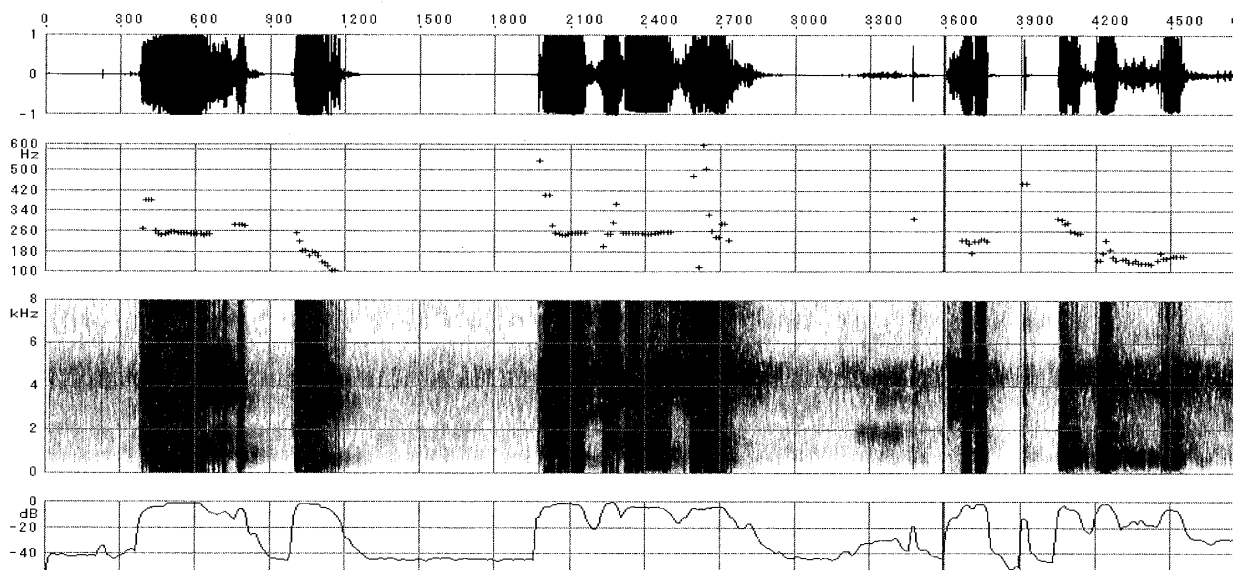
A (2) 陰平声 + 2 音節賓語

動詞が陰平声で2音節賓語をとる場合を見られたい。

図4 ① 揩黑板 k'p44 həʔ44 pE52 ② 推车子 t'p44 ts'o44tsɿ52

① 44 44 21

② 44 44 21



B (1) 上声 + 単音節賓語

動詞が上声で単音節賓語をとる場合を見られたい。

図5 写字 $\text{si}\bar{\text{o}}52 \text{ z}\downarrow 231$

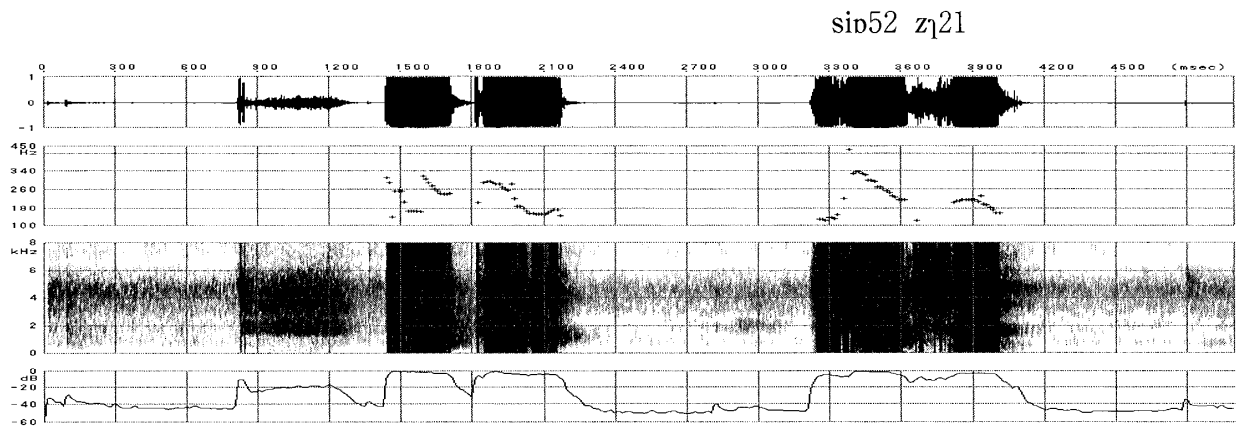
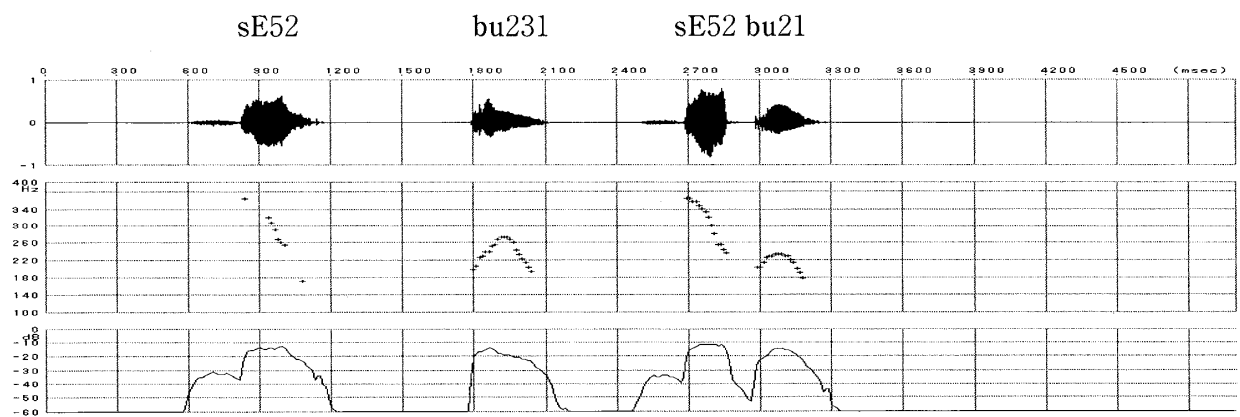


図6 散歩 $\text{sE}52 \text{ bu}231$



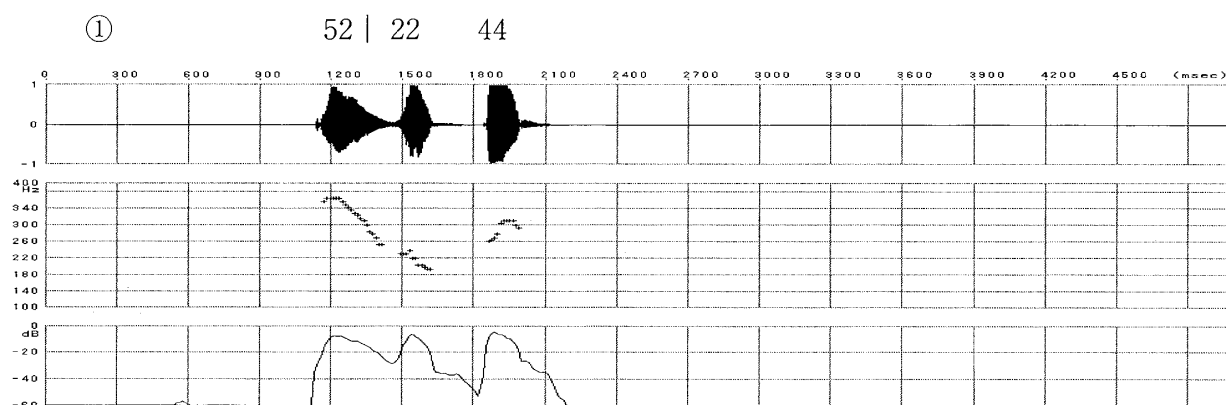
二つの上図とも去声 + 陽去声の組み合わせである。後音の231は音声連続により前音の上昇調が消失すると考えられる。この例のように、去声を頭音調とする2音節の組み合わせには連続変調の4422のトーンをもつものが見いだせない。体系的に見ると例外的な存在である。しかし、後述するように3音節には444421という平板調で保ち下降調で収束する一定の音調が見られることから、尚更この2音節における5221は例外的といえる。

B (2) 上声 + 2音節賓語

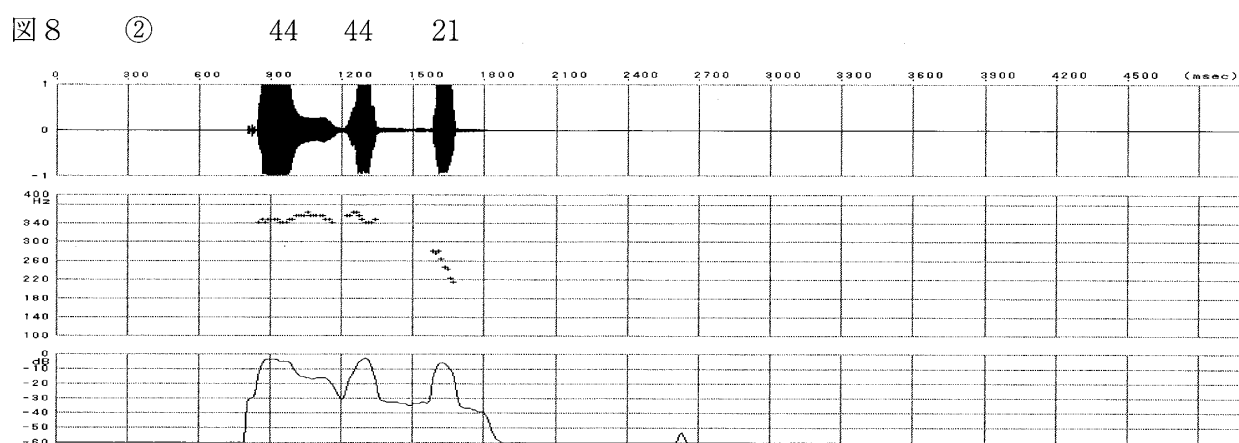
動詞が上声で2音節賓語をとる場合を見られたい。

以下は「上声 + □□」の動賓構造が、連続変調を生じない2つの音調群を構成する図①と「444421」のように連続変調して1つの音調群を構成する図②との比較である。

図7 裹馄饨 kəu52 uən23dən23



上図は連読変調が起きない例。下図は変調する例で「444421」となり、先に見たA (2) の「揩黑板 推车子」と同じ類型をなす。

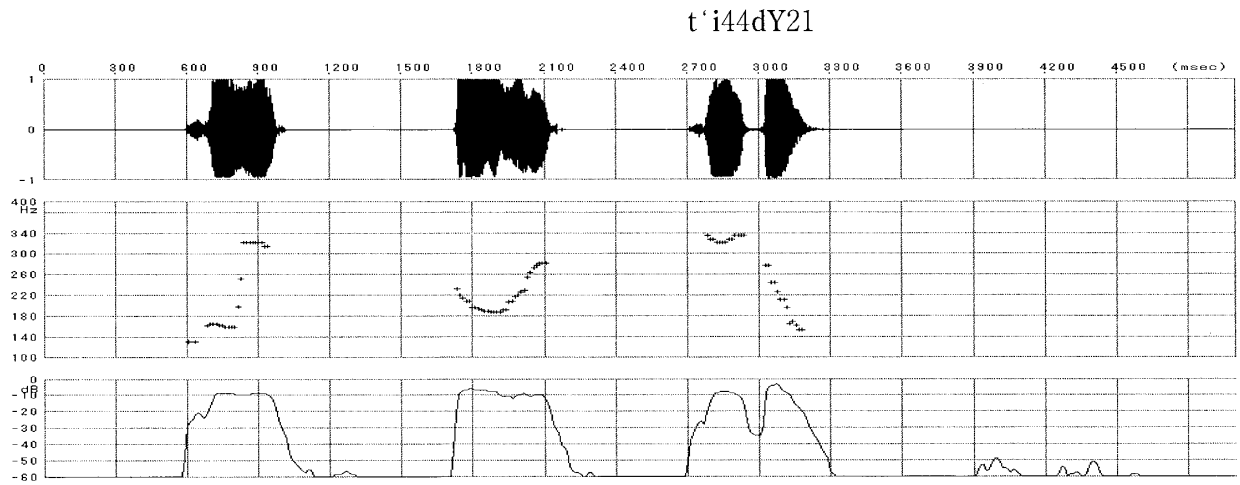


先に見た2音節の去声を頭音とする組み合わせには4421の音調は見られなかったが、3音節では平板調が見られる。類似した表現に「包饺子 pæ① tɕiæ③ tsɿ③」があるが、444421と一語化しない。これは方言語彙の場合、変調パターンを受容しないものではないか。⁵⁾

C (1) 陰去声 + 単音節賓語

動詞が陰去声で単音節賓語をとる場合を見られたい。

図9 剃头 t'i52 dY23



C (2) 陰去声 + 2 音節賓語

動詞が陰去声で2音節賓語をとる①、②二つの場合を見られたい。

図10 ①看电影 k'ø412 diI231 in52

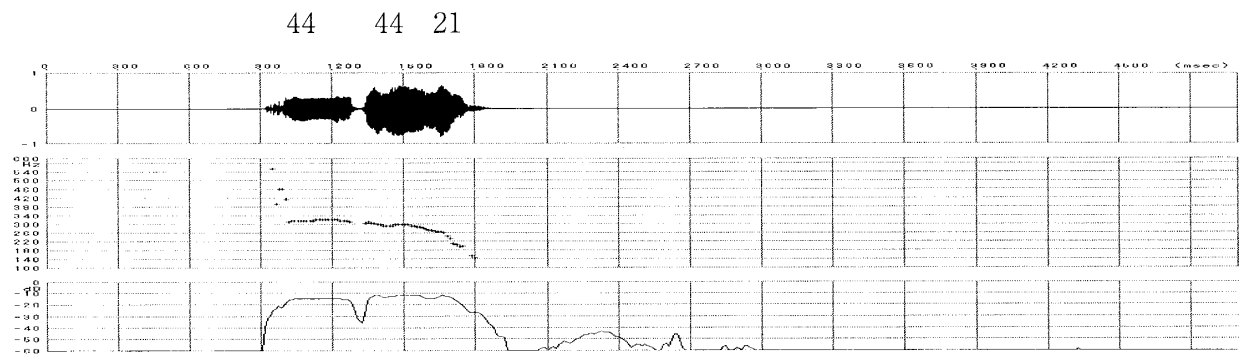
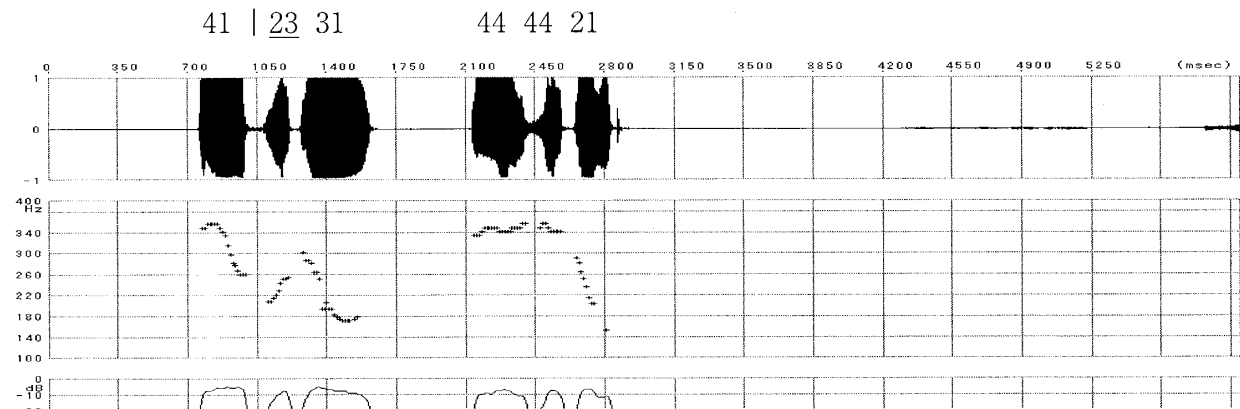


図11 ②到学堂 tæ 412 o?23 dō 23



D (1) 陽平声 + 単音節賓語

動詞が陽平声で単音節賓語をとる場合を見られたい。

以下は、还价 fuE23kp412の例で、①は还 fuE23、②は价 kp412の単音のトーンである。③は还价 fuE23 | kp41で、2つの音調群をなす例（図12）で、④は連読変調して一つの音調群 fuE kp 2244をなす例（図13）である。

図12 还价 fuE23kp412

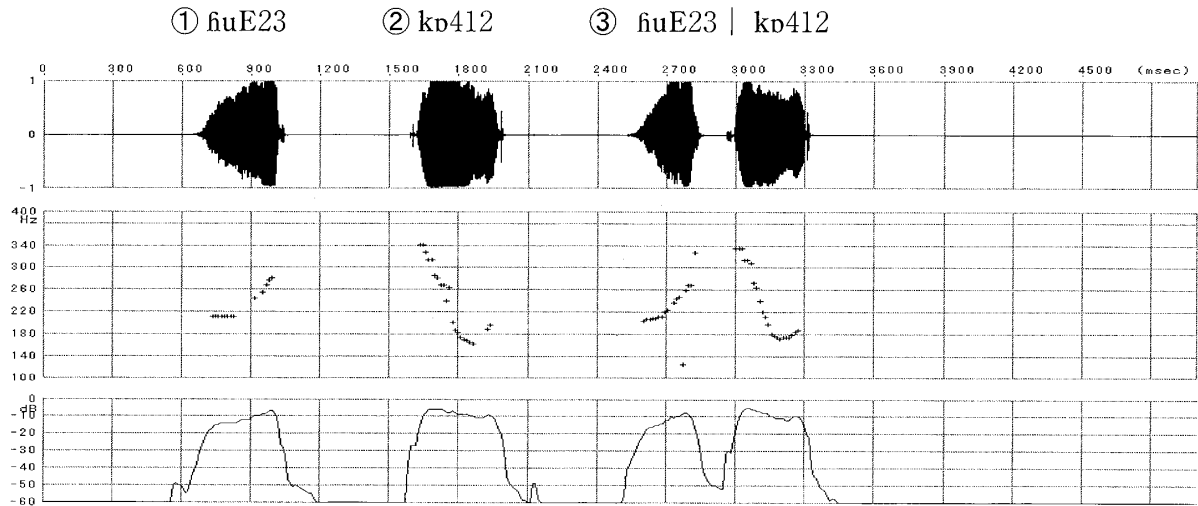
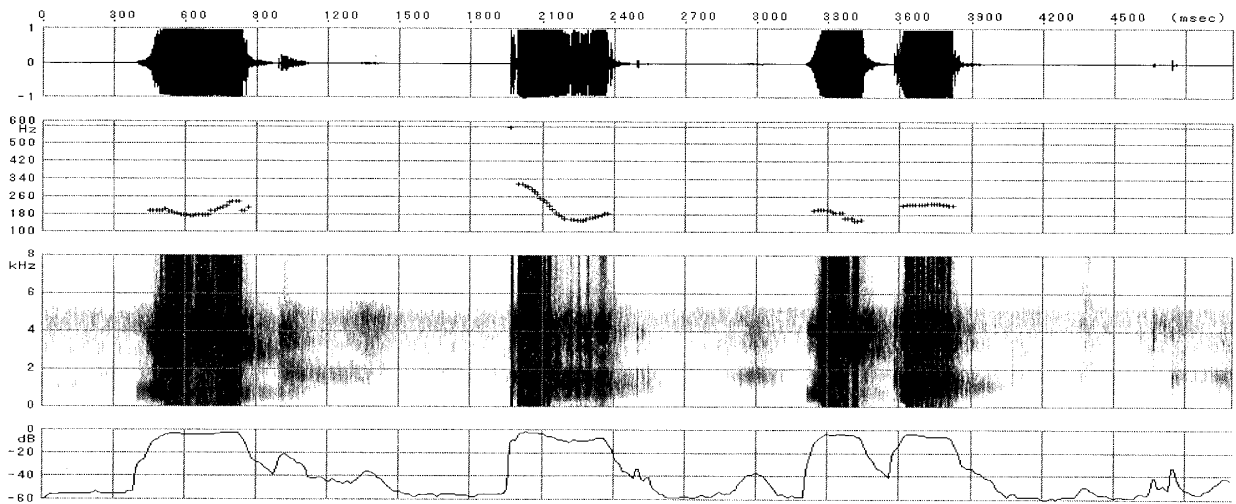


図13

④ fuE22kp44

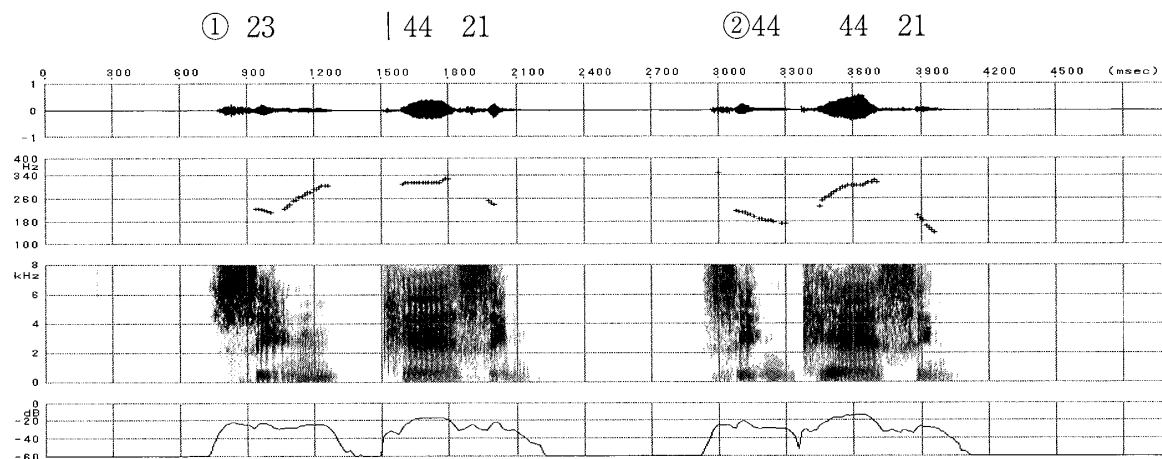


D (2) 陽平声 + 2 音節賓語

動詞が陽平声で2音節賓語をとる場合を見られたい。

①は2音調群、②は連読変調する例。

図14 寻开心 zin23 kE44 sin44

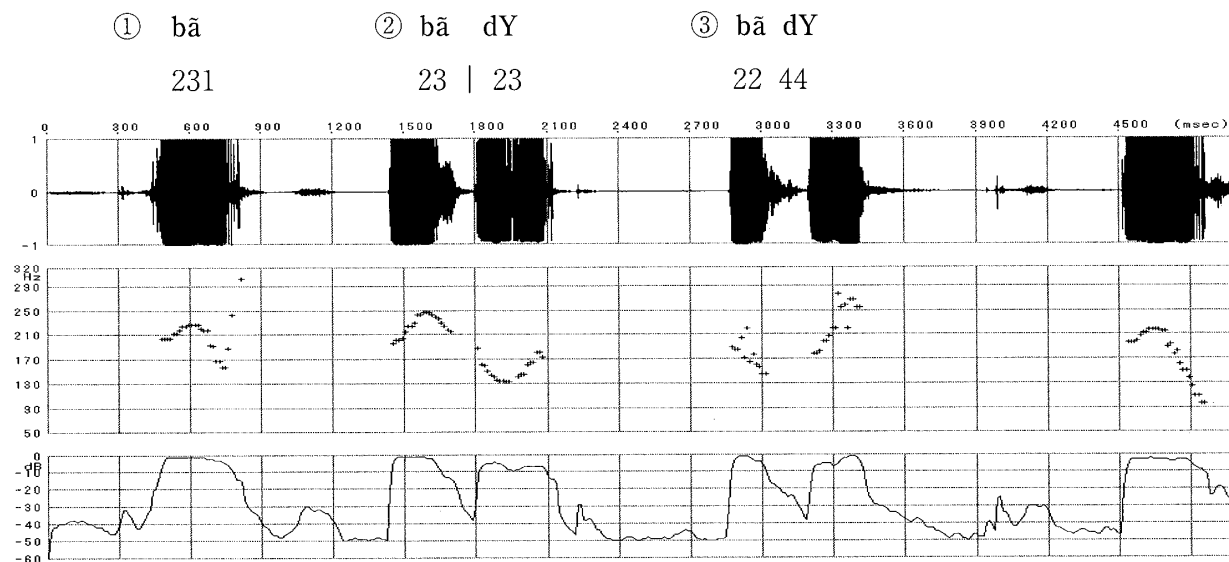


E (1) 陽去声 + 単音節賓語

動詞が陽去声で単音節賓語をとる場合を見られたい。

①は「碰 bā231」の単音のトーンで、②は2つの音調群をなす「碰头 bā dY 23 | 23」。③は連読変調が生じる2244のトーンピッチの類型である。

図15 碰头 bā231dY23

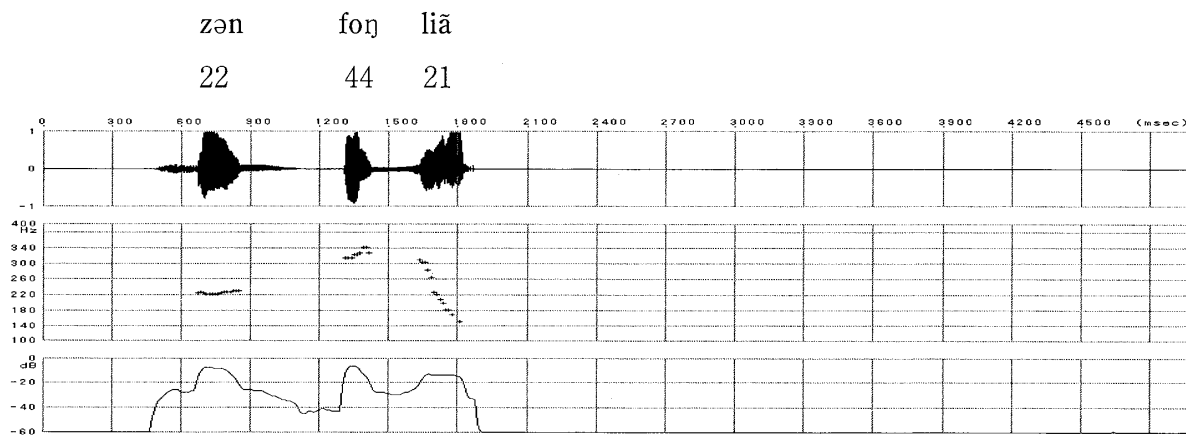


②は2つの音調群をもち、基本周波数データでは前音の下降調が消失せず、また後音の発端高度も消失してはいないが、聴覚印象では2323 (3) はきわめて鮮明にとらえられる。これは前音での上昇調が後音の上昇調に連続してわたるとき、機械では測定するが、聴覚印象にはとらえられないのであると考えられる。

E (2) 陽去声 + 2 音節賓語

動詞が陽去声で2音節賓語をとる場合を見られたい。 連読変調する類型である。

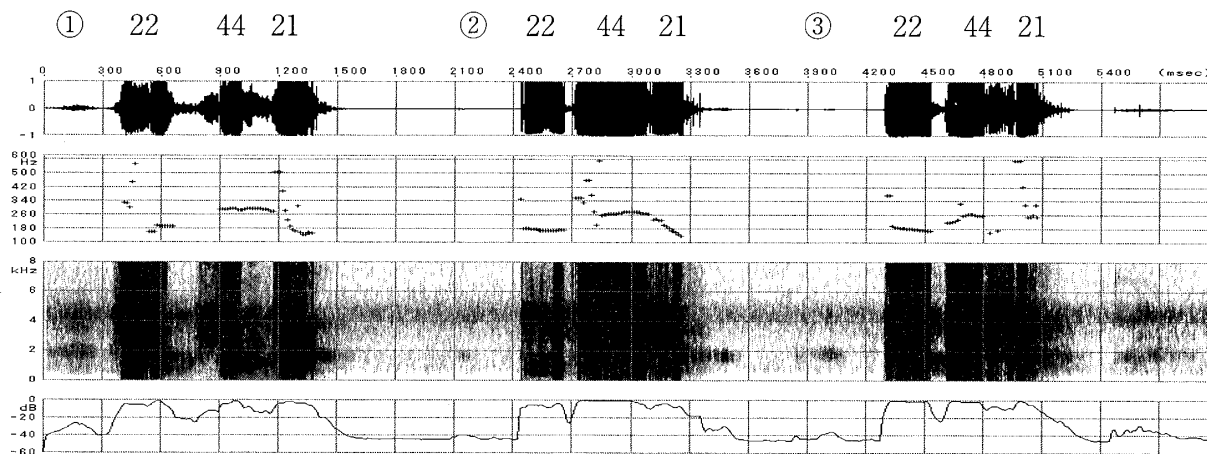
図16 乘风凉 zən231 foŋ44liǎ23



以下の図はいずれも連読変調する例。

図17

①乘风凉 zən231 foŋ44liǎ23 ②連太阳 bu231 t'ɔ44jiǎ23 ③汰头发 dɔ231dɤ23faʔ44



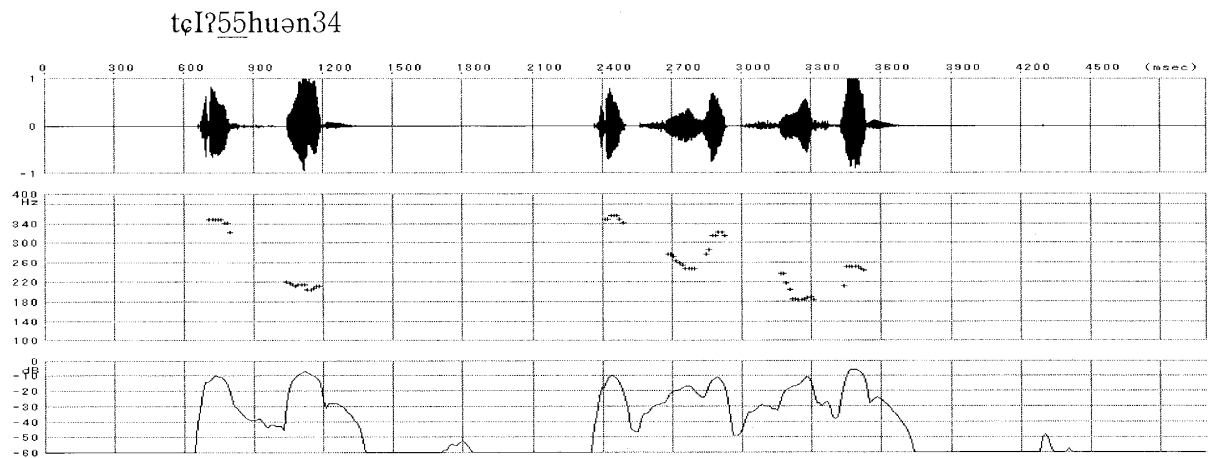
次に入声の動詞を第一音節にもつ組み合わせを検討する。

入声の陰調は55 34となり (⑦+⑧)の類型は55 55)、入声の陽調は23 52となる。

F (1) 陰入声 + 単音節賓語

動詞が陰入声で単音節賓語をとる場合を見られたい。

図18 结婚 tɕIʔ55huən44

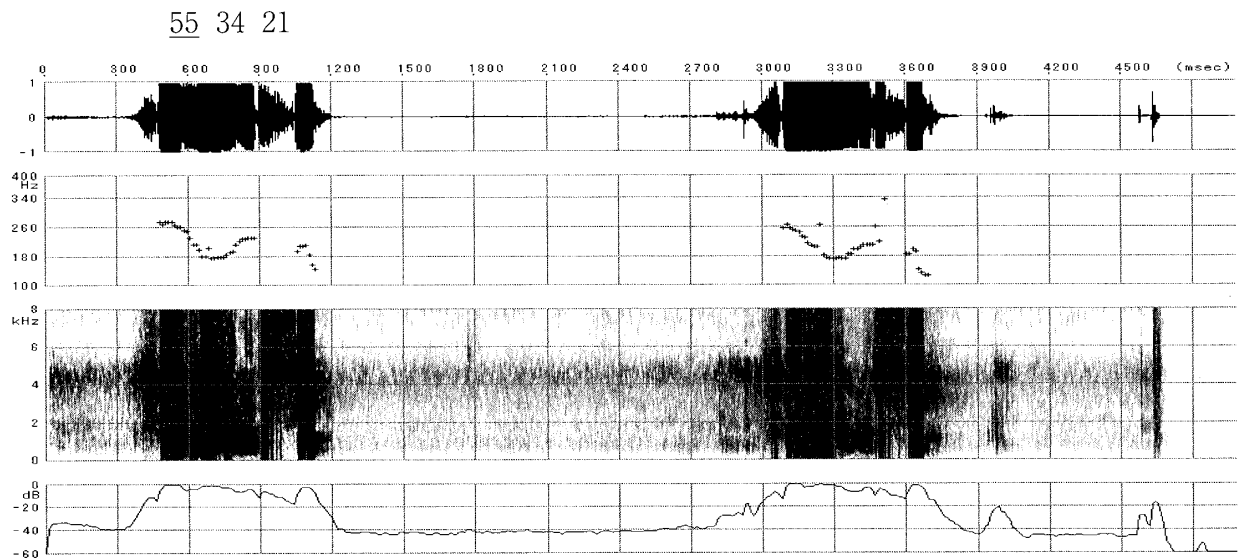


図で目視すると、huən の箇所の調値は220から220Hz への上昇ではあるが、これは聴覚印象では小幅な上昇で上昇調が認識できることを表している。

F (2) 陰入声 + 2 音節賓語

動詞が陰入声で2 音節賓語をとる場合を見られたい。

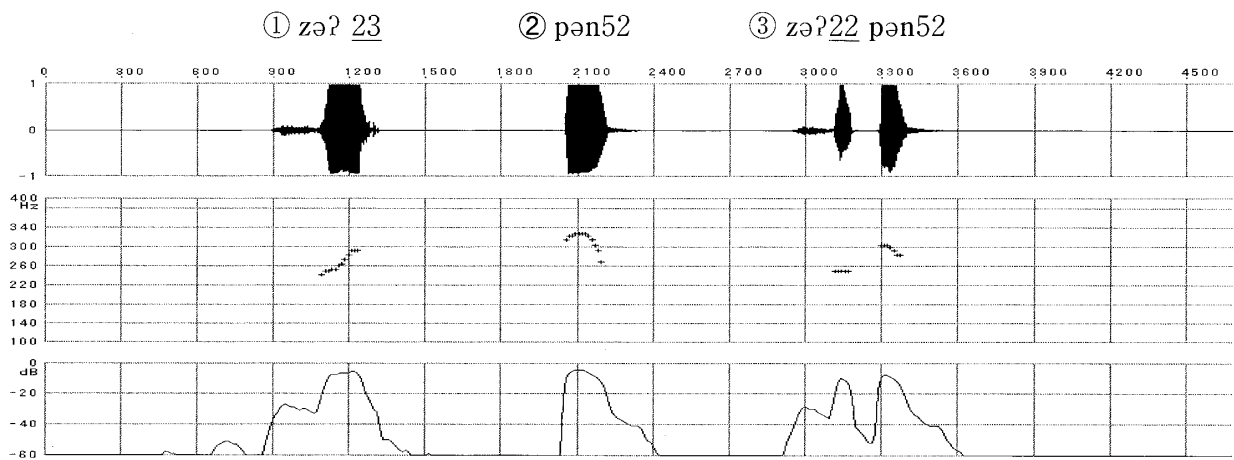
図19 发冷汛 faʔ55 lā231sin412



F (1) 陽入声 + 単音節賓語

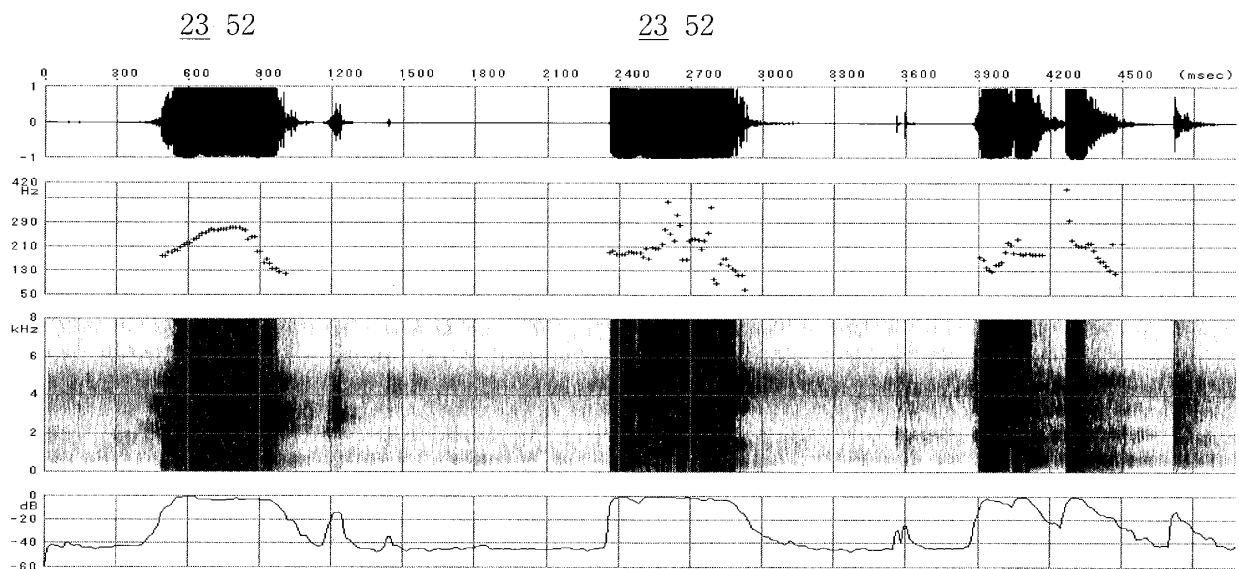
動詞が陽入声で単音節賓語をとる場合を見られたい。

図20 蝕本 $zəʔ_{23} pən_{52}$



①、②はいずれも単字のトーンを示し、③は連続変調して一つの音調群が生じる図である。

図21 ④落雨 $loʔ_{23} y_{231}$ ⑤读书 $doʔ_{23} sq_{44}$

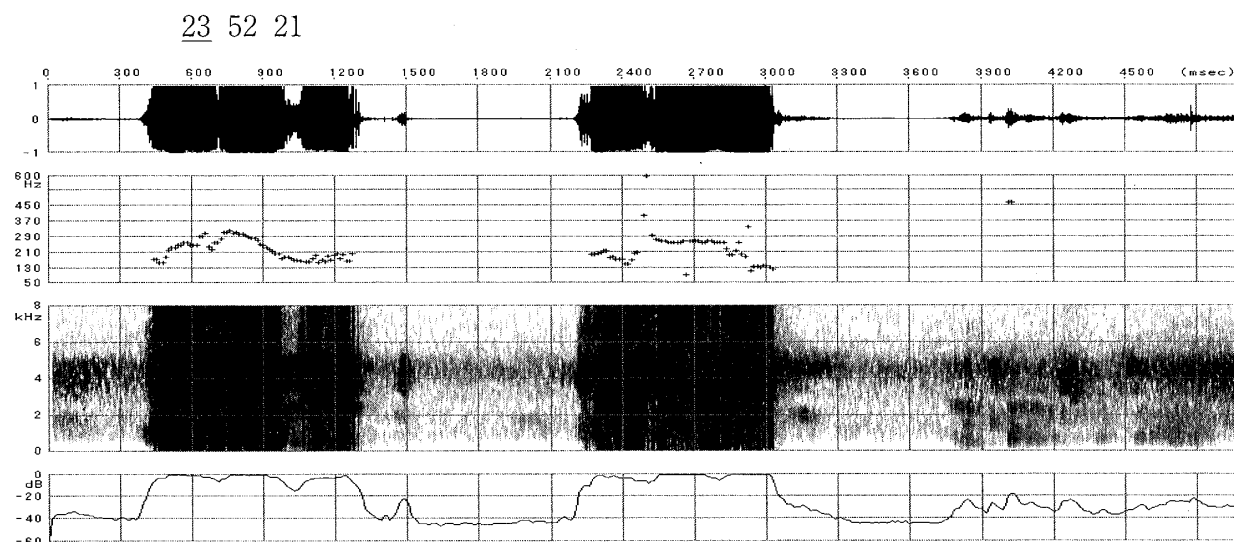


④、⑤はともに③の「蝕本」と同じトーンパターンを構成する動賓構造である。

F (2) 陽入声 + 2 音節賓語

動詞が陽入声で 2 音節賓語をとる場合を見られたい。

図22 学生意 $\text{fo}^?23 \text{ s}\bar{\text{a}}52\text{j}\bar{\text{i}}231$



A から G まで掲げてきた「動詞 + 賓語」の連読変調する音調の類型は以下にまとめることができる。

表 2

□ は原声調を表す。「|」は非連続を表し、連読変調が生じないことを示す。

調類 / 調値	動詞 + 賓語 (単)		動詞 + 賓語 (双)	
	動 賓 非連読変調 動詞声調	連読変調 類型	動 賓 非連読変調 動詞声調	連読変調 類型
舒声 (陰調)				
① 44	44 □	听书 4421	44 □□	揩黑板 444421 推车子 444421
③ 52	52 □	写字 $\boxed{5321}$ 散步 $\boxed{5321}$	52 □□	裹馄饨 444421
⑤ 412	⑤⇒③ 声調交替 41 □	剃头 4421	⑤⇒③ 声調交替 41 □□	看电影 444421 到学堂
(陽調)				
② 23	23 □	还价 2244	23 □□	寻开心 224421
⑥ 231	⑥⇒② 声調交替 23 □	碰头 2244	⑥⇒② 声調交替 23 □□	乘风凉 224421 通太阳 汰头发
入声 (陰調)				
⑦ 44	44 □	结婚 $\underline{5534}$	44 □□	发冷汛 $\underline{553421}$

(陽調) ⑧ 23	23 □	落雨 读书 蚀本	2352	23 □	学生意 235221
--------------	--------	----------------	------	--------	------------

3 まとめ

次のいくつかにまとめることができる。

- 1) 動賓構造が連続変調によって一定のパターンを構成して一音調群化する場合、第一音節の声調（陰調・陽調および入声）がそのパターンを支配する。但し、上声が第一音節で単音節賓語をとる場合は、下降調のパターンが生じる。
- 2) 第一音節の発端高度、すなわちはじまりの部分の高・低が弁別的要素になっている。
- 3) 音調には連続変調するものと連続変調しないものの二つのパターンがあらわれる。その理由には、外来的要素が考えられる。
- 4) 原声調が変調するか変調しないかを声調と発端高度を基準にして記号化すると①の表になり、また、各音節のピッチ・トーンのパターンを記号化して表すと②の表にまとめることができる。

△は変調し、○は変調しないことを示す。また、●は下降調を示す。

Hは高調を、Lは低調を、また昇は上昇調、降は下降調を表す。

表①

	2 音節	3 音節
陰平	○△	○△△
陽平	○△	○△△
上声	●△	○△△
陰去	○△	○△△
陽去	○△	○△△
陽入	○△	○△△
陰入	○△	○△△

表②

	2 音節	3 音節
陰平	H L	H H L
陽平	L H	L H L
上声	降 L	H H L
陰去	H L	H H L
陽去	L H	L H L
陽入	H 昇	H 昇 L
陰入	L 降	L 降 L

以上

1) 宮田一郎1983. 汪平1996参照

2) 汪平1996: pp.54-58はこうした変調を「半陰去変調」を指摘している。

「蘇州話陰去調の調値跟北京話的上聲一樣，是個曲折調。從音理上看，在曲折調後頭跟別的字時，因急于讀出後頭的字而來不及拐彎，就可能丟失後半聲調，降升調成了降調。北京話上聲在非上聲前是這樣，蘇州話陰去在跟後頭的字結合較鬆，不構成字組調時，也這樣。這時，前頭是單念的陰去字，後頭可以是單字或字組，聲調不限。合起來構成的多是短語，並且多為動賓結構或主謂結構。

また、蘇州語の陽去声は調値を231（汪平1996）と 31（宮田一郎1983）の2種類の記述が見られる。こうした有声音は福森2001:pp.174-177；齊藤2001:pp.115-116で指摘するように、「前に何もなくて始まった場合上がり調子が見られる」のであり、こうした昇降調のトーンをもつ音節は、後続の音節が続くと図2のように231の下降調「31」は消失してしまう。

3) 尚、「○」は賓語本来の声調（単音節賓語）或いは連読変調後のトーン（複音節賓語）を示し、動詞のトーンの影響を受けず変調しないことを表す。「|」は連読変調しないで停頓があることを示す。

動詞の声調	動詞	賓語	
陰平 ˩ 44	˩ 44	○	①
陰上 ˨˨ 52	˨˨ 52	○	②
陰去 ˨˨ 412	˨˨ 52	○	
陽平 ˩ 23	˩ 23	○	③
陽去 ˨˨ 231	˩ 23	○	
陰入 ˩˥ 55	˩˥ 55	○	④
陽入 ˩˥ 23	˩˥ 23	○	⑤

4) 次に挙げる連読変調の調値は第1音節の調類により分類した変調パタンの分布表である。それぞれ、①は陰平声を表し、以下同様に③上声⑤陰去声②陽平声⑥陽去声⑦陰入声⑧陽入声を表す。

舒声・陰調	①4421	444421
	③4421 5234 5221	444421 523421 522221
	⑤4421 5234	444421 523421
舒声・陽調	②2244 2321	225521
	⑥2244 2321 4421 (稀)	225521 233321
入声・陰調	⑦5534	553421
	5552 (稀) 55412 (稀)	555234 555221 555521
入声・陽調	⑧2352	235221
	2244	235521

宮田一郎1993: pp.39-45 参照

5) 汪平1996: 57-58では蘇州の食習慣に関わる「吃饭」と「吃面」をとりあげ、連読変調との関連を述べている。

参考文献

汪平1996. 『蘇州方言語音研究』, 華中理工大学出版社。

斉藤純男2001. 「音調の分析」『コンピュータ音声学』, おうふう。

福盛貴弘2001. 「モーラと実験音声学」『コンピュータ音声学』, おうふう。

宮田一郎、許宝華、錢乃榮1983. 『普通話対照上海語・蘇州語—学習と研究』, 光生館。

(2007年9月28日受理)